

ポスト・パンデミック時代 における国際教育の課題

2020 5/21

【第4回】緊急ウェビナー・シリーズ

「新型コロナ禍と国際教育」

聖心女子大学

グローバル共生研究所／教育学科

永田 佳之

とても簡単な自己紹介

International Jury



- 聖心女子大学の教員（教育学）
 - 研究者（グローバル共生研究所副所長）
 - 難民支援・環境保全の学生団体顧問
 - 教育分野の国際協力が専門（ユネスコ）
 - ユネスコ本部ESD賞国際選考委員、など
 - アジア学院評議員
 - フリースペースたまりば理事
-
- 猫 < 犬
 - ケーキ < 和菓子
 - 海 < 山
 - 三度の飯 < アート

世界に広がった就学保障の問題

FIGURE 4: COUNTRIES AFFECTED BY SCHOOL CLOSURES (AS OF 26 MARCH 2020)

738.9 million girls and women
785.5 million boys and men

Nearly **60.2 million teachers** are no longer in the classroom

Country-wide school closures

Localized school closures

166 countries had shut schools nationwide, **impacting almost 1,52 billion children** and youth who would normally attend pre-primary to upper-secondary classes

Source: UNESCO

議論の要点

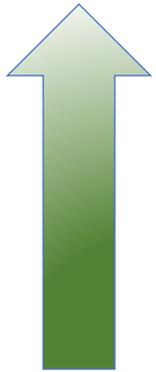
- これまで通りの学力保証に全力で取り組まなければならない。
→ EFA: Education for All
- 同時に、
- これからの教育の方向性（ビジョンやアプローチの問題）を
今、再考なくてはならない。
→ ESD: Education for Sustainable Development

不確実性の時代を生きる ための教育とは？

問われる方向性

持続可能な社会の形成に必要なものは？

教え易い



持続可能な未来

知識・技能

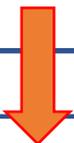
考え方・価値観

在り方・存在

What?

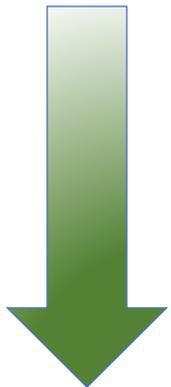


How?



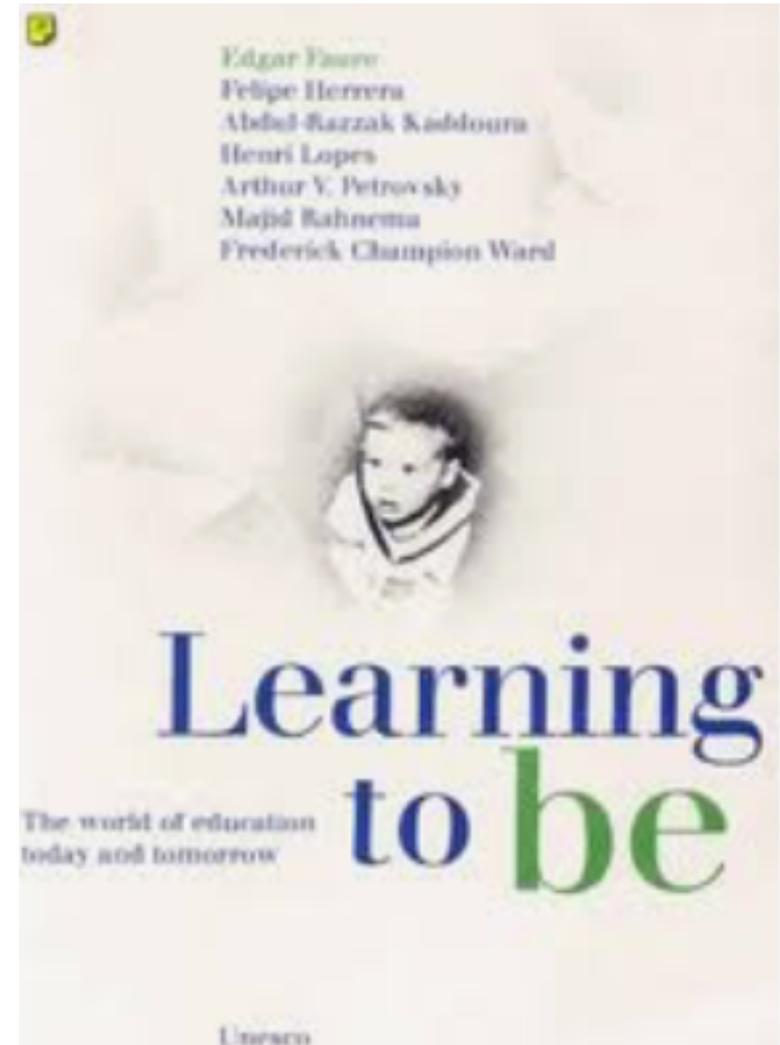
Why?

教え難い



学習の4本柱

- 知ることを学ぶ
(learning to know)
- なすことを学ぶ
(learning to do)
- 共に生きるための学び
(learning to live together)
- 人間存在を深める学び
(learning to be)



「深まり」の方向性へ

機は熟していた？

予測困難な時代を「問い」とともに 生きる —よりよい未来を創るために

末吉里花先生メッセージ

地球は一つ、でも世界は広いです。いろいろな人たちがいます。そういった多様性を大切にしながら、世界に目を向けて、自分たちが暮らす日本、地域、学校の中、家庭の中、そういったところにも目を向けながら、皆が幸せになっていくような社会はどうやったら作っていいのか、ぜひ考えてください。

皆さんは変化を生み出すことができる人たちです。何かをやらなければ問題の一部になってしまうかもしれませんが、何かに関わって頑張ってやっついこうとすれば、皆さんは問題を解決する一部になれる。

みんなで一緒に変化の担い手になっていきましょう。

Be the change!



末吉里花

1年 P76
「人の暮らし方を考える」

ブローグー 〈学びの旅〉へ
「[エシカル]に生きよう」 末吉里花



ロバート キャンベル

2年 P94
「不平等のない社会を考える」

「[ここにいる]を言う意味」
ロバート キャンベル
「—100年後のみなさんへ」 緒方貞子



福岡伸一

3年 P220
「人間の生命・存在を考える」

「生命とは何か」 福岡伸一
「地球は死にかけている」 手塚治虫
「水の星」 茨木のり子
エピソード— 再び 〈学びの旅〉へ



谷真海 選手 2年 P72 「夢を跳ぶ」



優勝した、日本トライアスロン選手権(パラトライアスロン)・デモンストレーション (2017年 東京大会)



国枝慎吾 選手 3年 P308 「言葉でつかんだ世界」



フェデラー選手と



「世界一」といわれるバックハンド

東京 2020 オリンピック・パラリンピック 競技大会持続可能性コンセプト

日本は、気候変動や天然資源の枯渇、差別等の人権問題等、持続可能性に関する世界共通の課題に直面しています。

東京 2020 大会は、「Be better, together / より良い未来へ、ともに進もう。」をコンセプトとし、持続可能な社会の実現に向け、課題解決のモデルを国内外に示していきます。

また、地球及び人間の未来を見据え、国連の「持続可能な開発目標 (SDGs)」に貢献するとともに、将来の大会や国内外に広く継承されるよう取り組んでいます。

国際的な動向

ESD for 2030は予見的であった・・・



写真) 講演者撮影

強調された「ディスラプション」

- 4.2 First of all, **transformation** necessitates (……) a certain level of **disruption**, with people opting to step outside the safety of the status quo or **the ‘usual’ way of thinking, behaving or living.**
- 変容とは、日常の思考・行動・生活からの脱却

脱・開発至上主義 「持続可能な開発」を超えて・・・

- 5.5 ESD's linkage to the SDGs can go even deeper (.....) **ESD** activities will not stop at just addressing topics related to SDGs (.....) They will find their *raison d'être* in raising **critical questions** related to development or **sustainable development itself** (.....) .
- ESDの存在意義は開発や持続可能な開発そのものを批判的に眼差すこと。

「持続可能性の文化」 エコノミーからエコロジーへ？

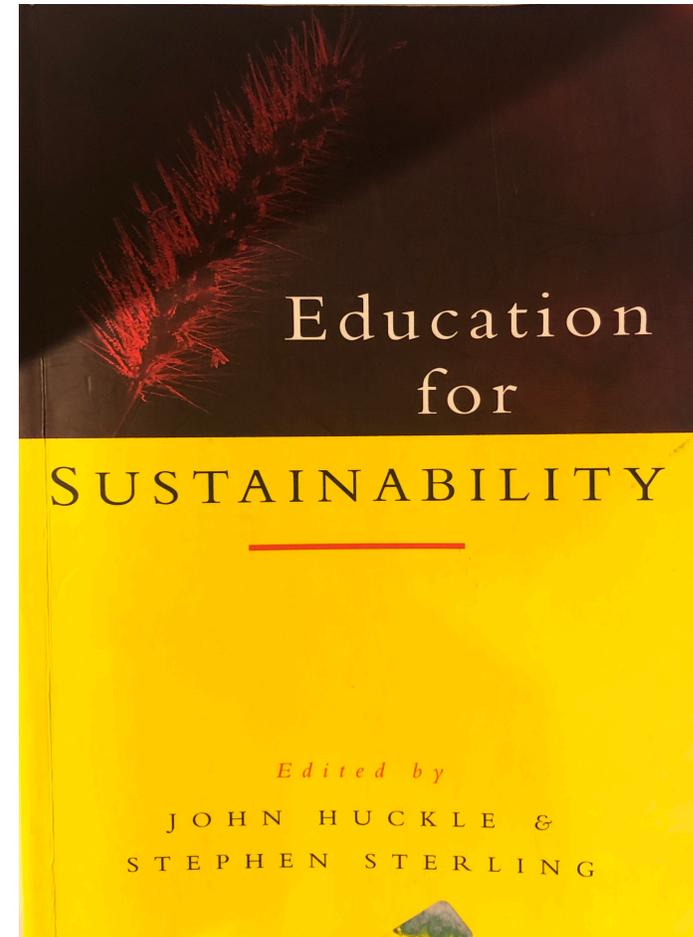
- 4.6 Last, but not least, the reflection on **transformative action** points to the absolute importance of community. In a community, which can be defined not only physically, but also virtually, socially, politically or culturally, learners find values and causes that concern them both individually and collectively. They can also find other fellow members and bond with them, which generates solidarity and facilitates collective action for transformation and **a culture of sustainability**.
- 「サスティナビリティの文化」をつくろう！

求められる資質・能力は？

「より深いつながり」 「共感」 「コンパッション」

- 4.3 With the acquisition of knowledge and information, learners come to be aware of the existence of certain realities. With critical analysis, they begin to understand the complexity of those realities. An experiential exposure to the realities provides them with a deeper connection with the issues, which can also lead to an empathic connection to those affected by the said realities. Empathy can turn into compassion if the exposed realities bear relevance to the learners' own lives and their sense of identity. A tipping point arrives where a compassionate mind is set on the path of empowerment.

「強いサステナビリティ」のための教育



強い持続可能性へ

持続可能性	一般的な反応	サステナビリティの状態	教育
とても弱い	否定（そんなのいらん！）	変化なし	変化なし
弱い	取って付けたような状態	つくろい程度	持続可能性についての教育
強い	埋め込まれた状態	本気でエコへ	持続可能性のための教育
とても強い	リデザイン（変容）	完全に統合	持続可能な教育

DESD
/GAP



ESD for
2030



持続可能性志向の教育の系譜

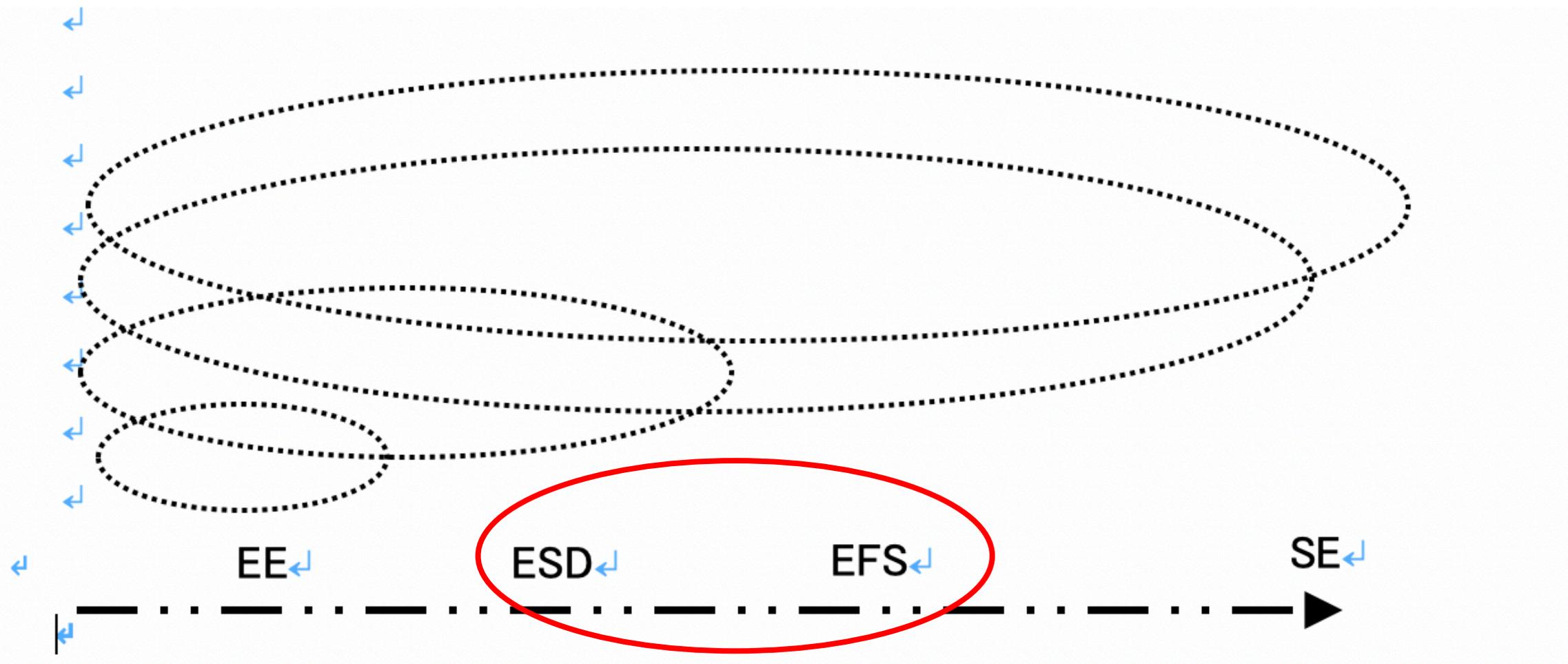


図 「持続可能な教育」の系譜
出典) Sterling (2004) をもとに筆者作成

- 異質な他者の受容やコミュニケーション、共生はメインストリームの教育一般にとって「二の次」
- **ポスト・パンデミックの世界で重視される EmpathyやConnectionは国際教育の十八番！**
- ただ、ESD for 2030が目指した自助努力によって変化を起こしたのではなく、「外圧」によって変化がもたらされた。

- 今、起きているのはシステム・レベルの変化
- 問題を内包したシステムがもつルールに従って変化を起こそうとする限り、そのシステム自体を変えることはできない。
- 問題はそれを作り出したのと同じ思考で解決することはできない。
- 今、求められているのはシステム自体を変えるようなディスラプション
- 国際教育はその牽引役を担っているのではないか？

国際教育のミッション

1. 従来の方向性

→ Learning to Know/Do → BECOMEのベクトル

2. ポスト・パンデミックの方向性

→ Learning to Be → BEのベクトル

3. BEの学習の体系化へ

試行錯誤の試み
～想像力を養う～

Let us cultivate our imagination towards the ones in shadow!

connected 10 *Edna A. Berman*
kind 

issue **01**
@connectedkind

nature's way of helping us thrive
shadow cutouts for inspired drawing
to discover and unite the artists in us all



nature + art + wellness







b



この子は何になりたい？
What does it want to be?





CONNECTEDkind

nature + art + positivity movement for all:
drawing out better world from shadows

皆のための、

自然とアートとポジティブな運動。

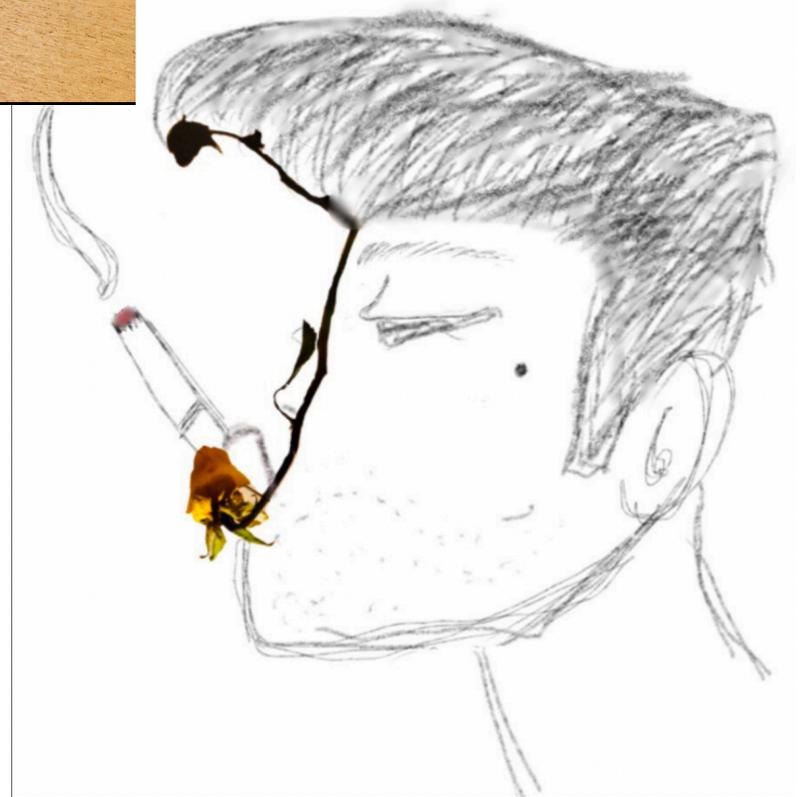
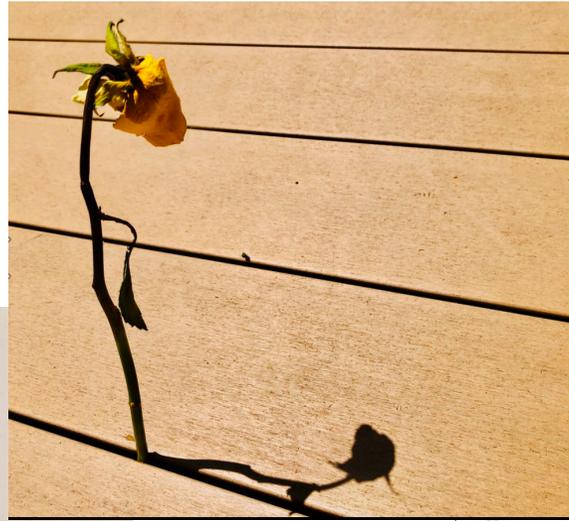
シャドーからより良い世界を描こう！





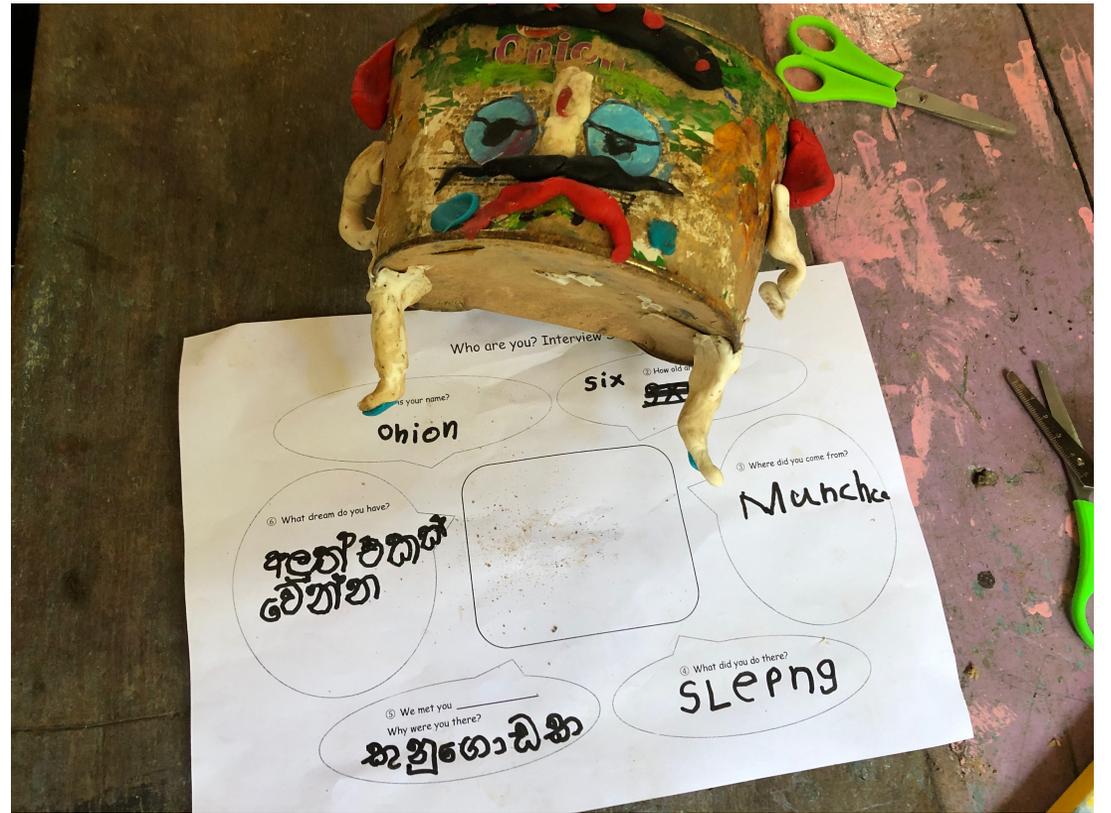
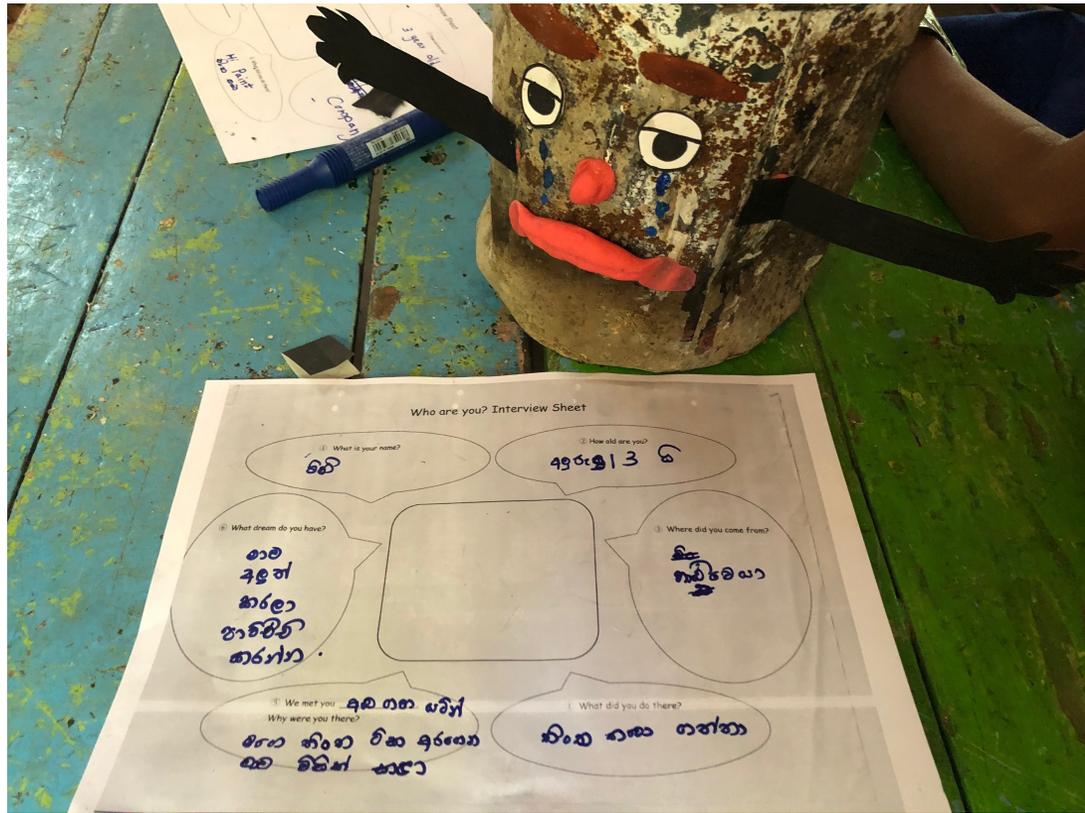
枯れたバラ





想像力と創造性 スリランカの小学校にて

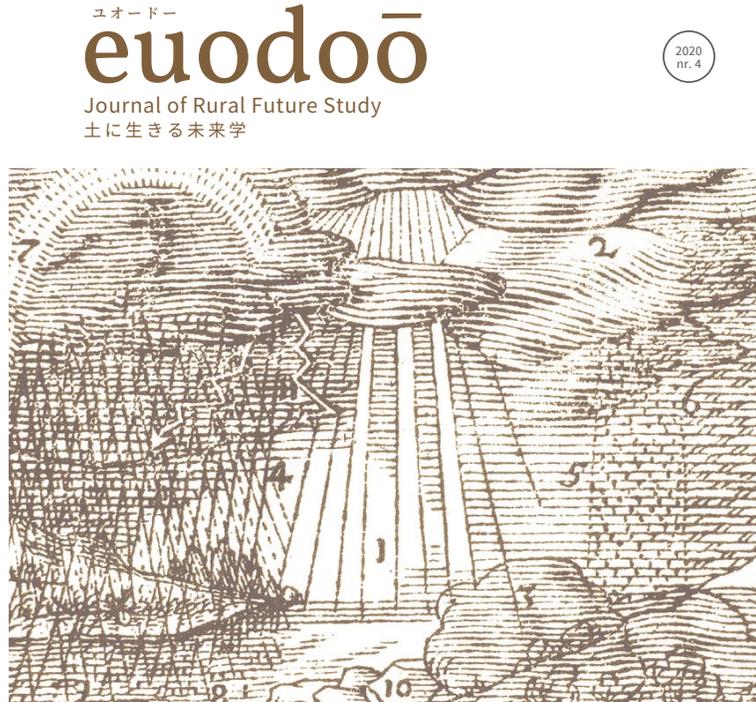




ゴミという「影」から生まれるストーリー



高等教育・成人教育の場合 Social & Emotional Learning



ユオードー
euodoō

Journal of Rural Future Study
土に生きる未来学

2020
nr. 4

Donata Elschenbroich Discovering School Gardens for Sustainability Kaoru Kobayashi Survey on Actual Sales of Organic and Eco-Friendly Products in Minamata Jeffrey Mensendieck Learning the Language of Dignity Yukiko Oyanagi, Wakako Kanda, Yoshiyuki Nagata Education about Climate Change at the Asian Rural Institute Samantha Senda-Cook "Food is..." Toshihiro Takami Sharing Food is Sharing Life Tebweretaake Tokantetaake Food Sovereignty through Locally Produced Livestock Feed
大柳由紀子、神田和可子、永田佳之 アジア学院における気候変動教育 小林薫 熊本県水俣市における有機農産物・環境に優しい生産物の販売実態調査 高見敏弘 食べものを分かち合うとはいのちを分かち合うこと ジェフリー・メンセンディック 尊厳という新しい言語

学校法人 アジア学院紀要, 発行 学校法人アジア学院
Journal of the Asian Rural Institute, Published by the Asian Rural Institute



「euodoō (ユオードー) 土に生きる未来学」第3弾!

2019/04/10

アジア学院発の論文集-第3弾!

アジア学院紀要「euodoō (ユオードー) 土に生きる未来学」の第3巻を発刊!

北海道長沼町で農業を軸とした共同体「メノビレッジ」を営むレイモンド・エップ氏による研究論文は、昨今日本国内で問題となっている主要農作物種子法を取り上げ、さらに趣旨に関する国際的な方針について深く考察しています。東京農業大学教授の小塩海平氏からは2つの論文のご寄稿いただき、日本語小論は、農業、技術、人間の霊性の歴史的な関係について、英語の研究論文は、植物工場産業の驚くべき実態が記述されています。また、アジア学院2017年度卒業生・2018年度研究科卒の蓮見千明氏による工場畜産とアニマルウェルフェアについての小論は、自身がアジア学院で行なったプロジェクト、豚をより人道的に育てる研究に基づいています。さらに学院教育部長・農場長の荒川治氏、卒業生アルデンドウ・チャタジー氏による論述は、巨大な権力機構の外にある人々が、リーダーシップと知識を自分たちのものとする農村の未来を提案しています。2018年に召天された名誉学院長高見敏弘による論文も収録し、今回も充実した内容となっております。



[Vol.1 2017] PDFダウンロード

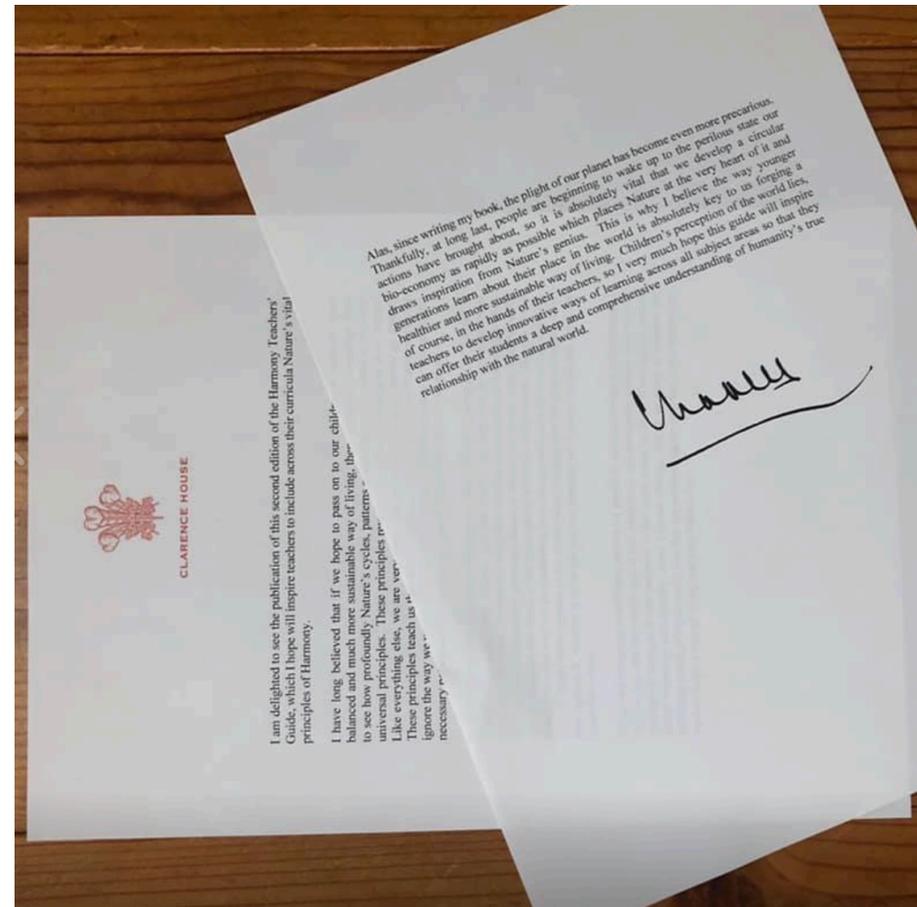


[Vol.2 2018] PDFダウンロード



[Vol.3 2019] PDFダウンロード

体系化もチャレンジ！



『ハーモニーの教育』 (近刊)



ハーモニー—私たちの世界の新たな見方と学び方—ティーチャーズ・ガイド



ハーモニー プロジェクト



ハーモニー

私たちの世界の新たな見方と学び方

ティーチャーズ・ガイド

リチャード・ダン



相互依存の原則
価値観:
友情、協調、信頼

多様性の原則
価値観:
尊敬、勇気、感謝

健康の原則
価値観:
ケア、信頼、幸せ

ひとつならりの原則
価値観:
愛、平和、連帯

適応の原則
価値観:
所属、責任、希望

循環の原則
価値観:
公平、平等、質素

国際教育のミッション

「未知との遭遇」をデフォルトにしてきた国際教育がいかにして、メインストリームの「未知との遭遇」をデフォルト化することに寄与できるか？

ご静聴、ありがとうございます
ございました。

聖心女子大学

グローバル共生研究所／教育学科

永田佳之